

一粒の麦

～心の時代の福音～

2023/4/2

棕櫚の主日

ヨハネ福音書12章12～26節

その翌日、祭りに来ていた大勢の群衆は、イエスがエルサレムに来られると聞き、なつめやしの枝を持って迎えに出た。そして、叫び続けた。「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」イエスはろばの子を見つけて、お乗りになった。次のように書いてあるとおりのことである。「シオンの娘よ、恐れるな。見よ、お前の王がおいでになる、／ろばの子に乗って。」弟子たちは最初これらのことが分からなかったが、イエスが栄光を受けられたとき、それがイエスについて書かれたものであり、人々がそのとおりにイエスにしたということ思い出した。

イエスがラザロを墓から呼び出して、死者の中からよみがえらせたとき一緒にいた群衆は、その証しをしていた。群衆がイエスを出迎えたのも、イエスがこのようなしるしをなさったと聞いていたからである。そこで、ファリサイ派の人々は互いに言った。「見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行ったのではないか。」祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々の中に、何人かのギリシア人がいた。彼らは、ガリラヤのベトサイダ出身のフィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ。フィリポは行ってアンデレに話し、アンデレとフィリポは行って、イエスに話した。イエスはこうお答えになった。

「人の子が栄光を受ける時が来た。はっきり
言っておく。一粒の麦は、地に落ちて死なな
ければ、一粒のままである。だが、死ねば、
多くの実を結ぶ。自分の命を愛する者は、そ
れを失うが、この世で自分の命を憎む人は、
それを保って永遠の命に至る。わたしに仕え
ようとする者は、わたしに従え。そうすれば、
わたしのいるところに、わたしに仕える者もい
ることになる。わたしに仕える者がいれば、父
はその人を大切にしてくださる。」

王としてエルサレム入城

- ろばの子に乗ってエルサレムに入るのは、王の印であった
 - 「あなたの王が来る。…ろばに乗って来る」ゼカ9:9
- 人々も歡喜の聲で迎えた
 - 「なつめやしの枝」: お祝いの時に振られる
 - 「ホサナ。主の名によって来られる方に、祝福があるように、イスラエルの王に。」
- ラザロをよみがえらせたことが知れ渡っていた
 - 「群衆がイエスを出迎えたのも、イエスがこのようなしるしをなされたと聞いていたからである」

ギリシア人の訪問

- **ファリサイ派も手出しできない程の人気**
 - 「見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行ったではないか。」
- **ユダヤ教に改宗したギリシア人たち**
 - 「祭りのとき礼拝するためにエルサレムに上って来た人々」
- **イエス様の噂を聞きつけ、会いたいと思った**
 - フィリポのもとへ来て、「お願いします。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ
 - フィリポはギリシア語の名前だったからか？

ギリシア人の訪問

- **ファリサイ派も手出しできない程の人気**

- 「見よ、何をしても無駄だ。世をあげてあの男について行ったのではないか。」

- **ユダヤ教に改宗したギリシア人**

- 「祭りのとき礼拝するため来た人々」

異邦人にもイエス様を紹介したいと思った

- **イエス様の噂を聞きつけ、会いたいと思った**

- フィリポのもとへ来て、「お願いです。イエスにお目にかかりたいのです」と頼んだ

- フィリポはギリシア語の名前だったからか？

「一粒の麦」となる

- 異邦人の訪問は時が来た事のサインだった
 - 「人の子が栄光を受ける時が来た。」
 - 「栄光」とは死からの復活を意味する
- 復活のためには死を経なければならない
 - 「はっきり言うておく。一粒の麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままである。だが、死ねば、多くの実を結ぶ。」
 - 一粒の麦も地に蒔かれることで多くの実を得る
- 「多くの実」とは
 - イエス様の復活 = 人類の救い！

2種類の「命」

自分の命を愛する者は、それを失うが、この世で自分の命を憎む人は、それを保って永遠の命に至る。

• 「自分の命」とは体を生かしている命

• 原語では「プシュケー」

• 「愛する」とは“こだわる”“しがみつく”の意

• 「憎む」とは“嫌いになる”ことではなく“手放す”

• 「永遠の命」とは霊を生かしている命

• 原語では「ゾーエ」

この世の命にしがみつく者は失って終わりになるが、手放す者は永遠の命へとその命を繋ぐことになる。

「一粒の麦」となられたイエス様

- 祭司長たちは弟子の一人を買収して裏切らせる
 - ゲツセマネの園で捕らえ、ピラトに訴える
- 十字架に架けられる
 - ピラトは死刑にすることを拒んだが、群衆はイエス様を殺すことを望んだ！（歓喜の声で迎えたのに！）
- 十字架はイエス様が望んだことだった
 - 「イエスは、このぶどう酒を受けると、『**成し遂げられた**』と言い、頭を垂れて息を引き取られた。」
19:30（「完了した」という意味）



結んだ「多くの実」

- 「人の子が来たのが、仕えられるためではなく、かえって仕えるためであり、また、多くの人のための、**贖いの代価**として、自分のいのちを与えるためであるのと同じです。」(マタイ20:28)
- 「言(イエス様)は、自分の民のところへ来たが、民は受け入れなかった。しかし、言は、自分を受け入れた人、その名を信じる人々には**神の子となる資格を与えた**。」ヨハネ福音書1:11-12

「一粒の麦」なる

- この世で「一粒の麦」となるのは…
 - この世では「自己犠牲」は美しいが割に合わない
 - この世の計算だけでは損をするだけ
- この世の命にこだわることの愚かさ
 - この世の計算をプラスにする者は、永遠の計算では「0(ゼロ)」になる
- 永遠の世界で計算しよう！
 - この世の命に囚われず、自分を犠牲にしたとしても、永遠の世界では大もうけになる！

神様は私たちの「犠牲(損)」を数えておられる

「はっきり言っておく。一粒の
麦は、地に落ちて死ななければ、
一粒のままである。だが、
死ねば、多くの実を結ぶ。」

ヨハネ福音書12章24節

